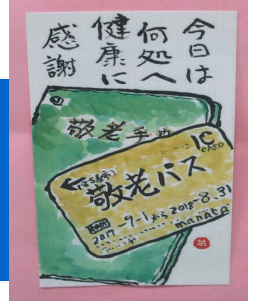


2月議会本会議・財政福祉委員会



はね返そう！ 敬老パスの利用上限へ危険な動き

自民党議員がとりあげ、マスコミも「敬老パスで一日平均13回、年間100万円も使う人がいる」との大宣伝が行われています。市当局も「敬老パスの対象交通機関の拡大に向けた財源として利用限度額も検討する」と答弁しました。

敬老パスの利用に上限を設けるこの危険な動きを見過ごすことはできません。共産党市議団は2月議会以下に反論しました。

読売新聞 2018年3月7日

敬老パス利用限度額検討 市交通機関拡大へ財源確保

高齢者が市営交通機関（市バス、地下鉄）などを無料で利用できる市の「敬老パス」で、名古屋市は対象交通機関拡大に向けた財源確保の一環として、利用限度額の設定について検討することを明らかにした。6日の市議会2月定例会で、中里尚之氏（自民）の質問に答えた。

敬老パスは所得などに応じて年1000円、3000円、5000円を支払えば市営交通機関などが乗超える利用者がいることが判

使ってこそ効果が上がる！

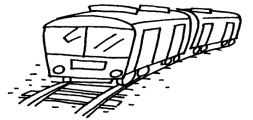
敬老パスは、65歳以上の市民が所得に応じて年間1000～5000円を払えば、地下鉄や市営バスなどが乗り放題になる制度で、現在の利用者は30万人余（交付率約60%）です。気軽に使っていただいてこそ健康増進や社会参加などの効果が発揮されます。利用を抑えてしまっ

乗り放題でも20万円

市民からこんなメールが届きました。「100万円も使う、とのことだが、私は地下鉄市バス全線定期券を購入した。半年で9万9960円、年間でも20万円でおつりがくる。100万円も払うことはありえない」と。課題があるとすれば、利用者の乗車回数ではなく、交通局との清算方法にこそ改善の余地があるのではないだろうか。

審議会の意見だから？

「社会福祉審議会からは利用上限の検討も必要と意見を頂いた」との答弁もありましたが、この意見は5年も前の指摘です。当時は、対象交通の拡大に50億円が必要と試算されていました。現在では対象交通の拡大に要する額は9億円+αとの試算に変わっています。「利用上限の検討が必要」との意見は最新の試算にもとづくものではありません。



利用実態ふまえて

たくさん乗る人にどんな事情があるのか？当局も把握していません。利用制限をあおるより、正確な実態把握こそまず必要です。

利用制限なしで名鉄・JR等への利用拡大へ！

使えば使うほど効果が上がる敬老パス。10月からは上飯田線でも使えるようになりました。対象交通機関が増えればさらに効果が発揮できます。

読売新聞 2018年3月14日

敬老パス上限設定 市交通局 難しい

高齢者が市営交通機関などを無料で利用できる名古屋市「敬老パス」を巡り、市が検討する健康福祉局が検討を表明した利用限度額の設定について、地下鉄などを運行する市交通局は「現状は別の方式なども含めて、様々な可能性を探りたい」としている。同局は、敬老パスの対象交通機関の拡大に向けた財源確保の一環として、限度額の

「maaca(マナカ)は現在、上限設定はないと説明。その上で、「制約がある全国サービスのルールの中で、限度額を設定するには調整事項が多い。システム開発にも技術的課題があり、難しい」と述べた。



敬老パスの4つの効果

- ◆社会参加(外出誘発)
- ◆健康(1400歩数増)
- ◆経済(敬老パス予算は140億円なのに対し、その直接的経済効果は316億円で2.6倍、波及効果は500億円で3.6倍、4200円/外出1回)
- ◆環境(二酸化炭素を6500t削減)